



バスラ日誌（5月7日）

1 4日の[]と[]師団長のスミッティ訪問では、ムサンナ県の治安権限移譲を含む師団の計画について前向きな良い議論がなされたと聞いた。この話し合いに県知事が同席していたかどうかについては、県知事と話し合ったと言ったような気がするが、英語力の不足から確定はできない。聞き直せばよかったが、ついつい話を流してしまった。（タバ友の副POLAD []との雑談による聞き取り情報）彼曰く、ムサンナ県の撤収計画は順調に進みそうなので、日本隊の条件さえ整えば、これまでメディア情報でも伝えられた7月末という話も実現できるのではないかと、言っていた。日本隊の撤収にどれくらいの時間を要するのかについては、これまでに各方面で聞いた話をもとに彼なりに計算しているのだと思う。一応『それでは、我々も7月には帰れるかもしれませんね。そうだといいけど。』と答えておいた。（5日配信された、師団長とマリキ首相の電話会談の内容には、[]が、ムサンナ県の知事と県評議会議長に「ポジティブな訪問」をしたと書かれており、その他情報からも同席を確認。）

2 昨日の朝会議においては、ブレア内閣の内閣改造についての報告もあった。デス・ブラウン財務担当閣内相が国防大臣になったが、軍事に関する経験はないとのこと。軍事関連の経験はないが、人格的には良い人だとPOLADが報告したものだから、一同くすくす笑い、大笑い、苦笑いを交えて、やや心配そうな雰囲気が漂った。政治に関わる人は、軍歴はなくても結構だが、軍事あるいは安全保障に関する、ある程度の専門知識を持つ必要があるのだろう。ブラウン国防相がどのような手腕を見せるのか、未知数とのことだが、経験がないから知識もないとは言えないから、興味を持って見ていこうと思う。因みに、前のリード国防相は、以前日誌にも書いたが、バスラを訪問され、握手をして言葉も交わしていただいたので、別に関係はないが、ちょっと残念な気もしている。内相として閣内には残ったようだが。（[]）